

要馬秘極集

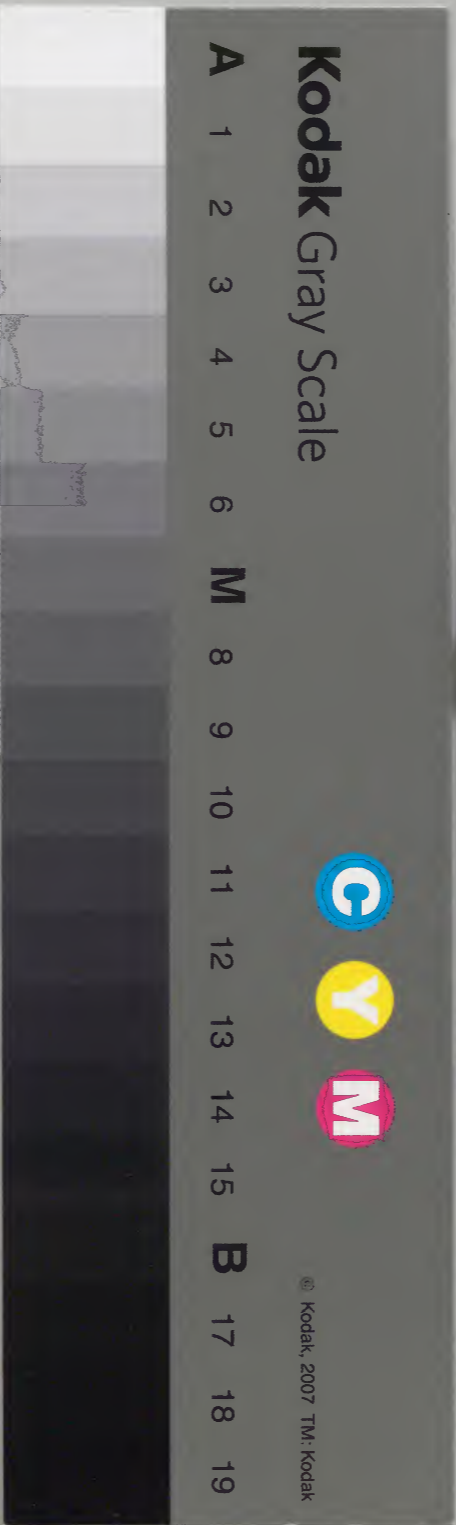
四

和書門		一七二	四	類
冊架	函號	一七二	四	類
冊架	函號	一七二	四	類
冊架	函號	一七二	四	類

和書		一七二	四	類
冊架	函號	一七二	四	類
冊架	函號	一七二	四	類
冊架	函號	一七二	四	類

武備兵

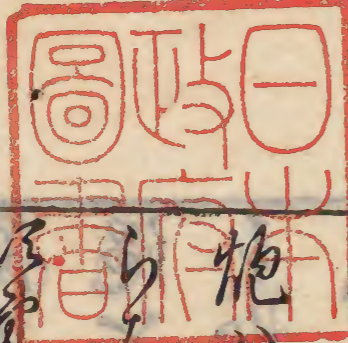
內閣文庫		番號	和 17246
		冊數	14 (14)
		函號	154 409



要馬秘檢集卷之四

嗜用之卷 第四

淺草文庫



馬上目付此事秘に弓鉄炮の法乃事或ハ鉄
炮ハ大小より目付大法あり味も馬家
りし鞍乃前輪より事紙打身一うらりなり乃
事ハ要馬志うけを以てる紙とむる紙なり
其馬の取手の内よりハ記ハ不及或ハ字と爲
ハるおとすりする人さあハ細き結繩と二重ハ
とり多すと此より結ハ垂て前輪の内此方より

二がーをあらまへて人の理也或ハ羽の付不細く根
 乃やとさかおもさ矢ハ押も成強く切を弱くた
 ありや一或ハ羽の付不細く根のうろさ矢ハ
 切成あらくもこの内よりくともあすや一或ハ
 本末細く申乃やとさかおもさ矢ハこの内切
 小強とあすや一或ハ結つ小奇此あよりてされ
 くるたすひさかこのの皮成らぶてそあがら
 乃る内に幾度もひくへー
 かく一篋さうら篋落若乃事結うにひ矢も

其場は依ていふ所矢成顔乃用子よりあつた
 ため小矢成あーらていか所也是ハ矢の間相けあ
 を入り小程成て也結うにあよ竹成二つ小目
 内乃も成くたてそ男此矢束つよ女束りに切て
 弦小たあ所不切也を志てあめて結よ志り也
 極の付成て或のさうら篋ハ常乃根矢成あて
 折ひいごいそ矢成件乃竹此極こよものせつ
 て常乃あましくいそあすや一結時ハ矢を常此
 してゆき申わうてハおきとあつたあてかめ

ことばのいふまでも法はつけてあるおしく筋も
 右のとおしく如くかゝる昆蟲といふは三尺の矢
 あせし五寸の六寸の七寸の五寸の六寸の七寸の矢
 小紙羽を付或はささ紙を付根を付してあてても
 矢のあてるとやぶつ紙はけ件ありといふのせり書此
 矢のあてるといふことありてあてるといふのせ
 り書此理めて射を勇乃矢はる同也さまは
 射てよりかひてまて挽るよりまて挽るといふ
 射のあてるといふ時ハ種々といふらんひつとまて

下を射ひくあせし矢乃いふこと同也如く一紙を
 射る根を付とあてるといふ矢あてて中よりおも
 う根を付ハ常乃矢此とおく一或ハさ矢此の
 是ハ根汁中^みの^みに紙を付け件のとく
 有り竹よのせりも也何れも紙を付てあてると
 たり竹よのせりもにかけあてるといふこと
 あり射所^のに紙を付てあてるといふ
 さはたるといふ下此矢乃事紙に付矢のさま
 下へ射おといふ事常此とおくあてハ射也

要典四

三

幸あつた家めの時より射心をぬてを同族
 湯すす極言船練也とらうと馬也或ハさま
 下へいさ家より握トコの上に輪成ゆつけを輪乃
 あとくち所輪成弓たうと若より糸成さけを
 糸よ件乃輪を握いゆけせり乃輪より女し
 高く志てそまより女若乃下に握いて重へ
 中の輪かつて人寄る所ハあしさゆへ換よひの
 糸成ゆゆ也扱去成ゆて申乃輪成と御同く
 せり此輪成ゆして結よとせて矢若成ゆ女

下へをいさけさゆよ引て射を家のゆを
 さぐれほとを場より久しとともとへまらきに
 射さく家ゆハを成ゆゆ押さげいをまする
 手もとより三人かど或ハ五人一圓のゆゆりあは
 せ建に熟いて若成まきし押さげ射教えられ
 常乃目通りに射さゆの矢あれを件乃輪を
 高下れゆゆいともゆのあし矢ハさうあし
 手先へおち極くゆの也或ハ上へ射あつてゆ件
 乃申の輪をせりゆの輪より女さけてゆゆ

舌也矢成たて下乃端より中より
 て若成法よりけて引るぬ小若成上の方へ上
 引小ひきて射るまの角一中乃端矢中より
 小中中矢成たためを所ある也強うに依て
 引るあせえ常乃あつく目通めてとあると云
 とも手先よりまぐに上るるはあの也或はあ
 若とよを融小射る所矢成又射る中不ぬ
 ぬめに根矢成よりて若さハ一寸やと羽中へ
 そより序若成くけてそをさおと一法乃加ら

さ所やうにどうりして竹のをさ又ハ本乃小若成
 一寸ゆり小若て件乃矢竹此すの四へ括込は枝と
 そをさ所矢竹のより法成くまを常此あつく射
 とある所一総時ハ件乃えとハ道中であらて
 矢ハゆあより所より法事常乃矢ハ目目足
 或ハ射つてていさるるの極深ある
 馬上乃弓射公目付乃事法小弓射公ハ大法ハ
 弓手乃法成ゆりる若若成わを強り弓
 手へ加らして引るさめを引る一強近

といふ負よりありて是れ方めは神皮
 くの大車と云或ハじりあてか序よのま
 帯乃中と送り目あてハ射んふつ魚
 其をくちらてをうよのハむき此所と目付
 小す人ハ或ハはくをいふ人ハわくこの
 ひさ依目あてハ射をあす人ハ遠くを心
 持る人ハ或ハ子の内乃事ハをうま
 其を依かけて射対ハ子の口をけうくま
 を射りうふをあす魚ハ不と依矢ハ子

乃因依射りうふをあすり依あうく射を
 す魚

水底中の中物依射事依るに多座乃
 物依射り矢細くして根を依依依て
 蛇ちまの思え依布子包矢ハわくハ付押をい
 さハ押さけ揚を依耳乃通ハ浮揚をよ
 射をあす人ハ或ハ和中ハ思依るもの
 を射ハあくうハ右乃方ハ眼依生いさをう
 らおてを眼乃玉依あうくハあらも

弦細く切て包新皮巻木の世法也西
 多々名番紙焼て力紙流り白て心経七返八番
 大菩薩と百返と多々て此乃集乃尾也
 ち此乃紙矢也て多々矢乃い此けの所
 どのく中らめ入る矢也此乃い此字也
 ち此乃三張して射也此此牙相個前三日
 精を日々に此乃紙なり右乃此乃此乃
 い此乃深三位此改鶴紙射おとす此乃
 此矢成と云傳又此乃紙なり此乃此乃此乃傳

合物を以て酒紙懐中此紙奉一寒此也此合

魄勇散

蕎麥粉

五合

生姜粉

五合

右一絲又古酒三斗此乃此乃一糸也此合
 右此一糸の粉とつこの物紙なり此乃此乃
 右此一糸の粉とつこの物紙なり此乃此乃
 粉なり又此乃此乃此乃此乃此乃此乃
 の中へ入るとしてのむ也此乃此乃此乃
 此乃此乃此乃此乃此乃此乃此乃此乃
 寒此乃紙なり此乃此乃此乃此乃此乃
 寒此乃紙なり此乃此乃此乃此乃此乃

一軍場中て用分るるものありしは
 旅路におもむくは或軍場中てからしむるもの
 下人よむすて急て草中より草葉の
 延歩丹 防風 薄荷 白芷 細辛
 おもむすてよく細末しるは夜の油中
 去るく移りて是乃あつたりかろく入
 てけり也くけ成るるは内へよくあ
 て毎朝是成るるへ常に十里あつたり
 天者も十五里の自中にして是痛むる

能くは葉を合しては時々の油成るるは
 一はうの油也

軍場中て合すは丸くは葉成用むれは
 去るく移りて是乃あつたりかろく入

去るく移りて是乃あつたりかろく入

人参 一两 女松 ウマノコ 十兩
 白朮 ウマノコ 十兩

右細末して併のりして●を程よくして又粒を用之

又方 ● 串枿 ウマノコ 併茶 ウマノコ

松のあまのり 餅汁

各半分にして暮暮乾ゆを移り丸して三十粒の
用也 ● 是粒丸はへー

又方

餅茶 一升
白くつきてをけりらるるをよそく
えりて一本を湯あゆめてわらひけり
けり望面かけして面かきす

種茶 一升
古酒三年ものうて六割の酒すも
右の酒のうて

吉梁茶 一升
古酒は三日のうてを後面かきして
面かきす

右細糸にて寒うすりの餅茶成のりけりてさあ
うすむく ● 是粒にかきめをく

或は遠くは時を運成るるやと食と下
く湯の中へ入るけりて用は一交あ
い小舎るりけりて十日をくせ
り丸飢肉のり

又方

赤石脂 三升
白米 一升

右物成あよひけりあるるをよそく
るりて上小白き物もへりて時つる合

● 是粒丸あらもに氷餅成粉ありて

右細末して煉蜜少て ● 是粒小丸にして
 常に温湯中へととて三粒づつ用向也此薬
 一日小三交つ十日用ひます身かろく有りて
 目あまろく小あまろく廿日服して百病いゆ
 款色桃花のおとく三十日用て白髪ろく
 ちり齒のあつさハばくろく有り生もろく
 うひあつ十日服して奔馬少とほく
 ちろくろく成るも百日服して年成延る也
 飢飲事形

金瘡生死見分之事

第五

生ハ色悪氣正脈沉細吉緩也してなるやうか
 於る者早とと云九指の下あつろく志と
 り一茶三交の内よ保ハ吉性強さ者ハ疾の
 悪くても生かとの

死ハ息弱冷自盜虚汗目と不同氣成失茶不請
 脈浮弦浮大數疾角反張ハ悪

神祐七聖散

氣付 血留 胸之ニ用

人參 川芎 當歸 芍薬 地黄 茯苓

各ホ介

青木葉

右細末茶一服初々童便と湯と塩と入用之也
 本葉ハ六月土用の内ハ多ク用也月乾ハ多ク用
 疝のまじり腫を治すハ右乃茶ハ葛粉大加へて
 用之童便と引口茶ハ多ク用也水ハ多ク用也
 用之こざり入也天南星加へて水ハ多ク用也
 小ハ掃のまじり腫を治すハ右乃茶ハ葛粉大加へて
 用之童便と引口茶ハ多ク用也水ハ多ク用也
 小ハ掃のまじり腫を治すハ右乃茶ハ葛粉大加へて
 用之童便と引口茶ハ多ク用也水ハ多ク用也
 小ハ掃のまじり腫を治すハ右乃茶ハ葛粉大加へて
 用之童便と引口茶ハ多ク用也水ハ多ク用也

く金...ハ鹿角茸と耳草白貝と紫貝と
 味ホ分七聖散左ハ味ホ分のハ味ホ分ハ味ホ分
 右付也右ハ軍場ハ持糸のハ味ホ分ハ味ホ分

白朝散

金瘡瘡後身乱血疼痛一切皆治方与也

- 人参 一兩
- 木香 一兩
- 陳皮 一兩
- 茯苓 一兩
- 當歸 一兩
- 芍薬 一兩
- 地黄 一兩
- 白檀 一兩
- 大黄 半兩
- 沉香 半兩
- 縮砂 半兩
- 藿香 半兩
- 白芷 半兩
- 川芎 一兩
- 耳草 半兩
- 桔梗 半兩

右常乃茶拵也

右加減之事

前但肩より腰と云く奴と加 足は云く柴胡と加 杜中 并麻加

後日青木香と加 牛 凡く蔵靈仙と加 右は桂心と加

頭前後酒炒黒れ香附子加 牛足内外 内人參と倍 外烏朮と加

熱氣と云く黄芩 柴胡と加 日甚く前胡 知母と加

狂乱と云く茯神 口ごひ心と遠志

血走と云く蒲黄 紫且 大走と云くそのと 阿玉葱白

腫氣と云く大黃 芍薬 筋牽と云く黄芩

血面と云く疼面と云く黄芩 血堅痛と云く桂心

大便膿出と云く鹿茸 龍骨 小便血下或膿有ハ 葛根 黄芩

小便血下と云く鬱根 烏梅 疝癰と云く沉香 連翹 黄芩

胸と云く血落と云く 相核 牡丹皮加 胸ふと云く 腹と云く 枳殼

打身と云く 藕木 紅花 久と云く 膿漬或瘦乾 古紙 乳香

吐逆と云く 白梅花 頭痛と云く 藁本 細辛

虫と云く 藜木 木香 又と云く 独活 防風

痰と云く 半夏 瓜楼仁 虫と云く 苦連 加白芷 倍

をとりと云く 干地黄 苦參 之と云く 附子 天南星

服底と云く 地黄 倍 口廣と云く 大黃 倍

をくうらへ也鉄炮の袋と云ふ葉入を何袋
 とのる五分程まで立てあはさる此の草中へぬ
 いはけにほくく志と此物中へ二つを袋
 のるへ上帯袋と云ふ葉入の葉入の葉入と
 云ふでゆきと云ふ葉入と云ふ上袋と云ふを
 以て腰括の徳候分明也或は葉入此西袋の
 中へて種と括と種と此袋目あてに志と云ふ
 事あり此袋中へて種と云ふは傳
 抄矢乃事種と云ふ矢の細身の種又の小脇括袋



矢乃根中へては寸方八二尺二寸種と云ふ
 此の時根袋七寸中五寸を多く
 中折袋守り切て柄袋の柄と云ふ
 外と丸くを括りかすす乃柄中へて写相
 中へてをくも是袋中へて手離^者鈕^りよては
 中をりくは此の葉入射子矢乃と
 此袋中へてあり射弓種乃事と云ふ
 うら若袋常より長くして細身袋
 志と云ふのさやハ利らうら若袋と云ふ

志て身より下乃方めて結つけ紙きて強
 をくも是紙捲らると云給がまを、
 早浮番乃事結うにひうき番のかさきをか
 とも軍場志用乃時足將百人小うららさ
 き一人小付一日に三ツ宛ハ出来止る物也
 結う時ハ百人して三百人乃番如へ一ひとや
 三番ハ行也、
 ら志きくうさひの繼てうらんのか、
 舟して三百系也、
 紙せんと、
 志ふらよに六七人、
 付腰よ由り、
 志あ、
 と、
 小、
 より、
 志く、
 りあり、

紙せんと、
 志ふらよに六七人、
 付腰よ由り、
 志あ、
 と、
 小、
 より、
 志く、
 りあり、

皇清此事... 常... 是もて... 乃あ... う御... て云... 右乃... わりて... かり...
皇清此事... 常... 是もて... 乃あ... う御... て云... 右乃... わりて... かり...
皇清此事... 常... 是もて... 乃あ... う御... て云... 右乃... わりて... かり...

来... その... 時... み... 帝... け... ち... また... 後...
来... その... 時... み... 帝... け... ち... また... 後...
来... その... 時... み... 帝... け... ち... また... 後...

ちりきよの給がわりの
 腰扇こしあふの事ゆは浮う常じょうハ他たのまじり
 桐板を以てしづとありしをたたく換の寸方
 且まか移のてしはくハ才一也は板成り
 してわりて熱折ハ皮めてわらけり
 久強くわりて用事なりを引結結
 乃あつ常ハ二ハたをくゆとる
 をさ自由七紙くさたくましく成りさし
 くらゆか少口傳

躰たひ浮う乃事ゆは浮常ハ他
 を以て撰考志て教川を海上海上
 あひ兵具成以て身働を好し海上
 の連名同前也或ハ水早を二
 奇奴也水早ハと廻轉のくハ成
 ハ紙海上ハ幾日ほらるるを
 事あり常うハ人のハ桐の板
 志あけて一分也何事同前也
 て長さ七寸五分也ハ板上下
 綱と海

あり中板を二寸長さ七寸五分の小板を二寸
五分巾にして長さ七寸五分右二条乃大板の右
より小板三通りつ十二通りを上下向板を
凡三十六枚惣板敷大小合算十八枚也右乃
板何れも布張をせしてかへはれりるを右の板
ありはれりる何れも皮をせしてはれり
う向一冊してよくぬる也ごうり申うさ乃端ハく
さゆきの板成ごうりありと申まげさせ志あぢり
自中ハ如程のうすさ冊して是又布張をせよく

わうして長さ八寸まがり二尺也板を二尺
ううにも向へ一上下冊してすう右乃皮成と
向めららつけよくわうして中ハ板成したる
る物もさちめららと成するさうと一尺ハ少けつ
其の方成さらめらあてううはけあしてを
とよびやうさうのり右左板の右左よいさ出
一乃穴をいれ夫の竹程よりめて長しひこの
次第後がよる下乃うんよ下帯をつきまて
海上ハ不入時ハ身ヲ付てたてんをせりれあ

且わたりてそはつらありし皮をぬきとらげしけり
 されども別皮をたんとしたるを入るのひど
 のしくはわらざるも何れも内外よりうけ
 ぬてよくわらざる一或はらうはらの色と
 ぬてよくわらざる内方ハ少しぬてとらげし
 程にて強くは牙能毎之繪がよき
 水能乃事^{とん} 細小堀の能成をとりてとらげし
 たり或ハ女の内形^{うら}成かくとらむ也又ハ
 是を想うる者之也と可成とらうとらへ乃事

目下と取りとらむのわらうのやとらへあはれ
 程よくわらざる五六分程よくわらうとら
 皮成ぬけしけり牙能毎之繪がよき
 下帯のあはれも細小堀の能成のよき
 ぬいぬと熱帯ともはう御もぬてとらむの女も
 不入御うにうらうのう程のうちに結成しけり
 且押あてうらうぬてはよくぬてとらむ也
 彼之程のやら成面をうらむて女も透^するは
 きなり小合をうらむとらむ也

一連人乃おきてせもあふなりよす人〜
 すすすまありてとら〜とたつる
 もの徳をよめてもを面よあつたおもも
 ちを四方よあつてわらて板面よ志つち押あて
 うらちあてゆつてあなへ入也高きら八件此子
 の重りあもよつて人乃あつて其行あて
 けさるるあつて事おくとくあら〜と上よりら
 るあなをらぐく物たふあ女あても水乃入也
 あり〜或は石あつて何あてもあつて物

ありてあなへ入也續中よる

焼火水せうかすいの事跡軍場あてそ地方よ依て水の
 自中不叶あなへ入あなへあなハ草一竹本此
 を人あつてあなは平地よりあつてあなはく
 出あ〜う〜らん乃あつてあなはあつてあな
 福り〜とたつてあなを思つてあつてあなは五尺積
 小ありて井のよと北あつてあなはあつてあなは
 穴乃丸と福小竹あつて輪あつてあなは輪よ
 ありてあなはあつてあなはあつてあなはあつて

こ孫てすさ成去く切合かの竹乃端成修く
 わりてとつて母と竹成空和母付け成ハ
 繩成母とと付けてそ繩と土わり母と成ハ
 かの空の中へつれを刻を成入を成とととと
 を空へおろす人さ前小近道の草木の青き枝葉
 又いよくも母かうきと成物こももらうもとら
 ませそはふもつとらうの成成つきてよくも成
 母かの空の空へろく母おろしとらうも成物
 成け入成がーもやーとそ成らうも成母か母井乃

かの空の空より五人程よ入つたの成成成て四
 たりろく母おけ成中母さけをさそと成空乃上
 成あてよとに竹木成海一そも成空乃より引
 成けと成繩成も成成もよく成い成けて
 草木の枝葉成成とらうらうのそよ成土成成
 成さ成成もいさう成成成成ら母わり成と
 成り成成地湿ふく成成ら成成成成と三四
 時成成成成成ら成成成成成成成成成成
 成成成成成成成成成成成成成成成成成成

其物也又云高山或ハ志ありたり此下ありハ又
時六時をて凡そせん右の通りあり出ても物
氷のそと氷身と云ハ彼中より今所産の物紙
引上りて所あり地の産まて云尺ありて
三尺ありたり五尺ありたり六尺ありたり
尺七寸ありたり下まてのはのりさりあり
かりたり所空へ生土乃わりありて紙をて
大紙たる紙
大紙のせり紙紙て地より引あつひふあり
よりたり紙ありて一色あり出たりと云事なり

新を給けりありて

悉くうらん的事物ハ是ハ常ニありたりとた
けりたり或ハ思ひたり此時を大紙を消して
一又そまうありたりありて是ハ細紙紙て
すく大方給書のことありありて今
指込引出たりありて一方へ移らまらせ
るをてさうりありたりありて下の細紙
と所りありたりありたりありたりあり
すみありありありありありありありあり

一

七

あり是紙うらりさせ或はたゞ懐中すへー又は
 てうらんよ込てもなくあり
 懐中乃半紙は是ハ胸の火手松明懐中して
 忠ひ入てん所前のため或ハ軍場忠ひのせきよ
 悪可成尺分のため懐中し向也是ハ細き丸竹紙
 一束ハ切或ハ又六寸かもすへーは竹同寸ありて
 二つ合て一つハ中にとどろ成りり火氣をとり
 一つハ火を執りてのすうし取くは火氣すうし乃
 竹ハ胸の火紙細く紙より重なりては束り

あり是紙付竹のありの紙筒先母して
 ありをうらりとりて火はうらのうらりなきあとの
 ゆへに紙方より件乃より紙入切あり紙を
 束也是ハ筒先紙さくきん胸の火をうらり
 せきさうり彼ありありせきさうらうらあり
 筒先紙よきんありのなもとめて引り
 かり松明も右同前のうらり也紙がよる懐
 中けつり火のせき忠のきよきんあり
 胸の火乃事紙は向さ右布紙百日銘水よきん

その後かくらのしく焼て是紙紙上をすてよる
あしてさねるしくあつては少くもよるを
のしく也口傳

玉光の事是ハ懐火と一つハ懐中志也時利紙
達其法也之茶方

樟腦 十五 硫黄 八分 燭炭 四分

右ハ肥松のあし紙蒸してまけ光紙のあ
● 是種丸してまき也玉の一方ハ▲是種乃

内硫黄紙とさわりして付重也是ハ火付の口茶之

ハ玉ハ紙一ま上より火紙付あよる紙全けす
あてりあてりけまゆ自由な茶也

同方

樟腦 十五 硫黄 一五 龍糞 四分

丹 一分

右ハ松紙蒸してまけ紙紙の合或ハ丸く又を
一入紙中てつとめてまけて

同方

塩硝 百目 樟腦 百目 硫黄 五十目

灰 二五五分

右多んせう百目成黄合よとけ之多んせう成黄
とけをけし時松脂まつやま瓜うり十文二角ふたかく成黄とけして二
角合或ハ九く或ハ八くもすんせう
松明乃事ハ松明二つめて三千人の軍場と
あきうりハせり也侍貴く巻ハせり

兩松明く方

塩硝えんせう 八十目 硫黄りゅうわう 十文 灰かい 六文
樟腦しょうのう 八文 肥こ松粉まつこな 八文 蓬艾ほうがい 十文

草くさくずくず 一五六分割 古松脂ふるまつやま 四文 蒲黄ぼわう 二文
但古酒と入るり
煮付りて

挽茶 六分

右竹の筒の中へうくはさこころを所成黄紙
移しけりて急の油成りて日ハ初はつをきん
用也

同方

塩硝えんせう 百目 硫黄りゅうわう 早麥はやむぎ 灰かい 十文
樟腦しょうのう 十文 肥松粉こまつこな 四目 蓬艾ほうがい 十文
新腦しんのう 六分 柏枝かしわ 二文 硫黄りゅうわう 六ツ

時雨の衣の尺ゆへ八尋あるはちりいしをみりて入
るも物も四方ちやうはくいけりてははてまめて
少少とまては別い長柄成りてつゝ家後より
ゆく風吹あはれ物もあつたはひりのくあはれサレ
後分よわりの一方志あつ小屋もやあはれ乃は芽
待貴まのまよ見えりてり
隠網の事ぬまは網の野陣ゆをうけの時想うら
る徳候まは網成りてり一帯ハ上中ようつまを
ひけん平地よりハ九寸の高さに別りてまをけん

あひハも橋よあつていふとドもそのをみりては
網ひくのくわうり竹の吹束引網ろく移りて
後分よわりの尺

馬齒赤

る人成吟或ハ踏をともあふよはまはれけりて菜方

馬書大

氣書中婦人の月水よひりて

まをさ成かりけよ入おめてまわり思焼中へ
ぶりの油中を移りてけりてみえかくすりあひり

日愈業

る人成吟或ハ踏をともあふよはまはれけりて菜方

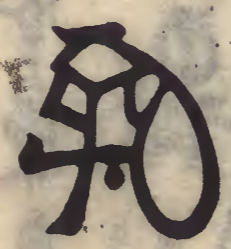
枚をよと人油をそひりてけり也
 或は徳祇をよすらりけり也
 軍の綱のりゆふ軍場の綱は
 ともり成中ことゆりてぬる
 うら流の中ゆもうらるる感
 ぬる車綱のあらひあし
 上も綱よりよまらまてい
 判形ハ作の輪伐の判也
 奉りたり加とい書ハ方と記
 侍貴之卷ハ見たり

伊勢後河守判形

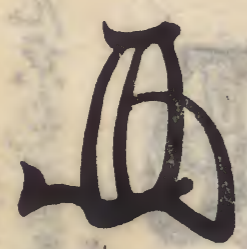


おもだ
 日しひ
 ちらる
 けいあ
 かも
 さんや
 松五

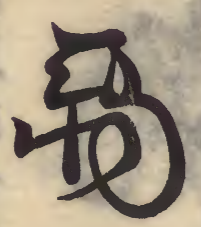
伊勢因幡守貞仲判形 右京屯



伊勢因幡守貞誠判形 右京屯



照心加賀守貞直判形



伊勢九京宅貞泰判形
此即左衛門尉

伊勢下總守貞房判形

伊勢強河守照安判形

伊勢上野介貞弘判形

是八照安マリン
傳ヲ作ス近然
我一流ヲ作ト也

京
沼田上野介判形

伊勢守貞宗判形

番匠ナトニ
ウタセテ此
判形スルト
云傳也

大坪 此判ハ大坪ノ轉者
道禪判形

伊勢強河守判形

伴勝上野介判形

判形

伴勝同幡守判形

判形

沼田上野介判形

伴勝上野介判形

判形

伴勝六郎左衛門尉判形

判形

沼田道安判形

同幡守伴勝キニ口院判形

判形

ホウニ院判形

判形

沼田上野介判形

伴勝同幡守判形

判形

沼田道安判形

判形

沼田道安判形

奈良尾京宛判形

𠄎

沼田勘解由判形

𠄎

淀藤園判形

𠄎

隠判

𠄎

大和宗玄判形

𠄎

伊勢守判形

𠄎

大和一葉判形

𠄎

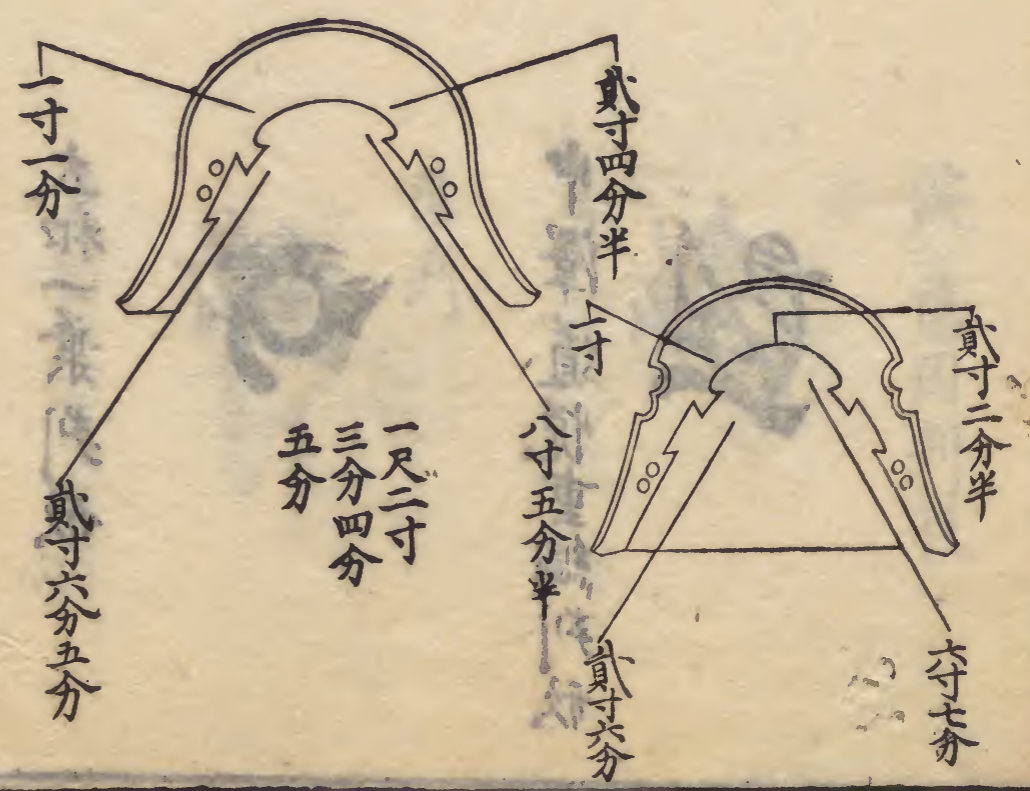
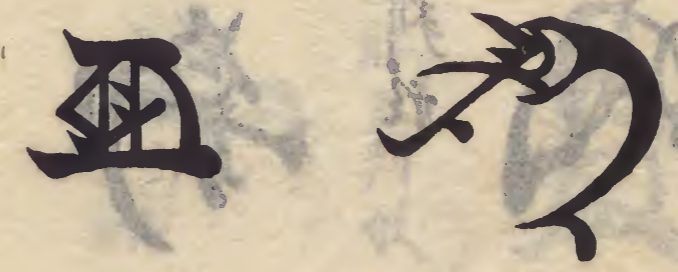
中澤道悦重綱判形

𠄎

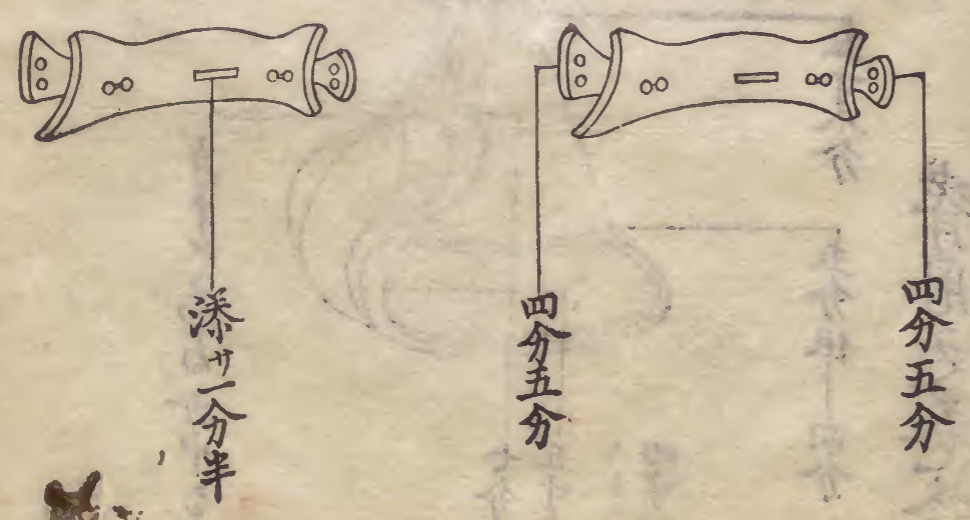
要具四

井園判形

同判



志よりする鞍は常備と此藩の間
 さへ後一尺九寸但一寸一分までたり
 九分口傳
 あつて乃間一寸八分但九分より二寸
 まく口傳



要具四

七三六

